

教職課程

自己点検・評価報告書

令和7年3月

香蘭女子短期大学

目次

I 教職課程の現状及び特色	1
II 基準領域ごとの自己点検評価	3
基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有	3
基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫	5
基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成	6
基準項目 2-2 教職へのキャリア支援	8
基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	9
基準項目 3-1 教職課程教育カリキュラムの編成・実施	9
基準項目 3-2 実戦的指導力育成と地域との連携	10
III 総合評価	11

I 教職課程の現状及び特色

- (1) 大学名：香蘭女子短期大学
- (2) 所在地：福岡県福岡市南区横手 1 - 2 - 1 香蘭女子短期大学
- (3) 教職課程の現況

① 認定を受けている教職課程

学科名：保育学科 教職課程種別：幼稚園教諭二種

② 教職課程の目標

保育者養成を主たる目的とする保育学科において、教職課程の目標は、本学科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）と合致している。

本学科ディプロマ・ポリシーは以下の通りである。

保育学科 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- 1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる保育者
- 2 そのために必要な専門的な知識・技能と、それを支える基礎となる「保育者としてふさわしい人間性」を持った保育者

目標を達成するための計画は、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）と合致している。本学科のカリキュラム・ポリシーは以下の通りである。

保育学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- 1 専門教育 保育者として必要な専門性を身につけるため、カリキュラムは「理論」「実技・技能」「演習」の3本柱とし、これらをバランスよく往還的に学んでいく。実践家として活躍できる力を身に付けるため、あそびと教材研究等を学び、「実習」「保育・教職実践演習」において総合的に学ぶ。
- 2 教養教育 自らの関心や特性をもとに科目を履修し、保育者としてのさらなる成長に必要な教養を身につけ深めていく。
- 3 初年次教育 主体的に学ぶ姿勢を身につけるため、オリエンテーションならびに総合演習において、短期大学における学習のあり方と心構えについて学ぶ。保育者を目指すクラスメートと共に学ぶ風土を形成し、保育士資格・幼稚園教諭免許の2つの資格免許取得を目標とする心構えを持つ。
- 4 キャリア教育 オリエンテーションならびに総合演習において、学年集会やクラスミーティング、OG懇談会、自主実習等を通し、社会人としての心

構えや基本マナー、保育現場の実際、専門就職の方法について学ぶ。アドバイザーを始めとする学科教職員とのキャリア指導の中で具体的な学びを行う。

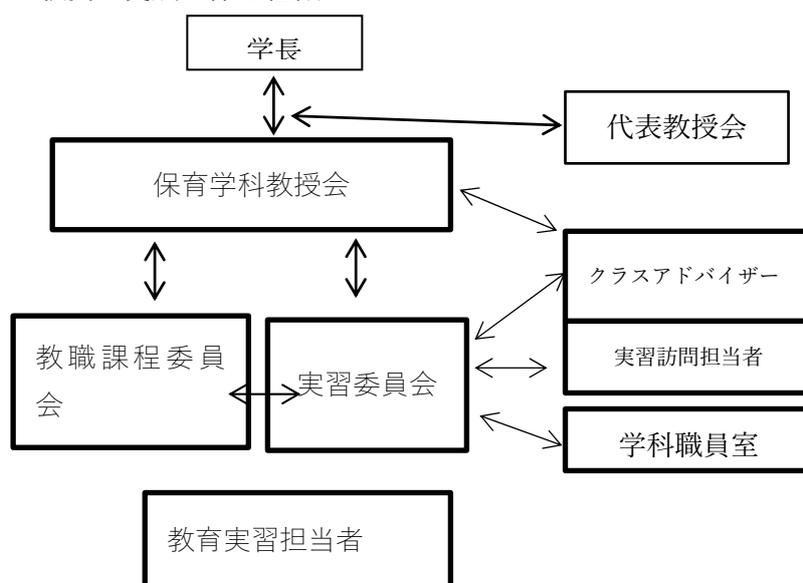
5 教科外学習 社会人として必要なコミュニケーション力、組織におけるリーダーシップ・フォロワーシップ、現場における協働力を身に付けるべく、学校・学科行事、サークル活動を体験する。

6 学園生活 毎日の授業や学生生活の中で、教員やクラスメートとの交流を通し、「保育者としてふさわしい人間性」を身につける。

保育学科学生には、カリキュラム・ポリシーを基に、授業以外の学校・学科行事及び委員会活動の意義と重要性を説明している。

③ 教員の養成に係る組織・教員数・教員情報

・教員の養成に係る組織



- ・教員の養成に係る教員数（専任教員）

教育の基礎的理解に関する科目等	4名
保育内容の指導法	1名
領域に関する専門的事項	5名

・教員情報

教員の学位及び業績⇒本学 WEB サイト情報公開 教員の業績等

<http://koran.ac.jp/about/docs/disclosure-professor-hoiku.pdf>

専任教員 10 名のうち 4 名は幼稚園教諭免許状保持者（実務経験者 3 名）、また 4 名は専門分野における中高の教員免許状を所持している。

④ 教員免許状取得状況（過去 3 年）

令和 3 年度卒業生	令和 4 年度卒業生	令和 5 年度卒業生
105 名	85 名	57 名

⑤ 教員就職状況（過去 3 年）

令和 3 年度卒業生	令和 4 年度卒業生	令和 5 年度卒業生
40 名	50 名	24 名

* 幼稚園・認定こども園の就職者数

II 基準領域ごとの自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

① 現状説明

本学の建学の精神「いかなる困難な場にあっても、創意・工夫を大切にし、人を愛し、人から愛される自立した女性の育成」、学訓「創意・自立・敬愛」、本学の使命（教育目標）「建学の精神のもと、社会の中堅として、指導的役割を果たす有為な女性の育成」を踏まえ、保育学科は現場で活躍できる教員養成を設立以来 55 年以上にわたり行ってきた。

本学科の教育目的・目標は、建学の精神を踏まえ、3つの心の育成という形で具体化している。保育者を目指す学生は、保育に必要な専門の知識及び技術の獲得に加え、保育者としての基本的な資質を身につけることが重要であり、その具体的な目標として、4つの感性を涵養することをあげている。

○保育学科 教育目的・目標

3つの心を育む

- ・自己の成長を願う心
- ・他者の成長を喜ぶ心
- ・社会の役に立つことを願う心

4つの感性を涵養する

- ・学びの感性＝学びに対する意欲を持つ
- ・交流の感性＝積極的に人と交流できる力を持つ
- ・情報の感性＝必要な情報を収集できる力を持つ
- ・仕事の感性＝仕事への情熱と誇りを持つ

保育学科教育目的・目標は学科教授会で定期的に確認を行っている。

教職課程の目標は、本学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と合致している。

保育学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- 1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる保育者
- 2 そのために必要な専門的な知識・技能と、それを支える基礎となる「保育者としてふさわしい人間性」を持った保育者

本学科ディプロマ・ポリシーは自己点検評価報告書作成時に点検を行っている。

② 長所・特色

本学科教育目標にある3つの心は、保育者として卒業後も継続して意識してほしいものとする。本学科では、「保育学科賞」を設け、在学中に「自己の成長」としてGPAアップ項目や「他者の成長」「社会の役に立つ」ことの表れとして「イベント成功に貢献した」「委員会活動にてリーダーシップを発揮」など複数の表彰項目を設け、年度末に表彰を行っている。表彰者の審議や、実習評価・就職先との意見交換の中で、学科の教育のあり方を教育目的・目標と照らし合わせて学科内で点検を行っている。

③ 取り組む上の課題

「保育学科 教育目的・目標」「保育学科ディプロマ・ポリシー」について、専任教職員においては共有ができていますが、非常勤講師においては不十分である。2つが記載された学生便覧及びシラバスを提供し、学期初めには学科長より上2つを踏まえたお願い文書を非常勤講師に渡している。今後はお願い文書においても、目的・目標の共有を意識した内容にしていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- 1 学生便覧
- 2 シラバス
- 3 本学 WEB サイト
- 4 非常勤講師宛学科長文書（前期・後期）

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

① 現状説明

保育学科内で「教職課程委員会」が組織されている。メンバーには科目「教育実習」担当者、「保育・教職実践演習（幼稚園）」担当者が含まれている。「教職課程委員会」での審議内容は学科教授会にて報告されている。

実習に関わる事務組織として「実習委員会」があり、教育実習訪問指導担当の計画等は「実習委員会」が行っている。

学科専任教員 10 名は全員、教職課程科目を担当しており、教職課程に責任をもって関与している。教育実習先訪問指導は学科専任教員 9 名で分担し担当している。

実習事前事後指導は実務経験のある教員が中心となり授業を行っている。

② 長所・特色

保育学科専任教員全員が教職課程科目を担当し、嘱託教員を除く 9 名が訪問指導を行うことで、授業内での様子、教育実習先での園からの指導内容及び評価について分担して把握している。実習終了後の学科教授会において学習成果の獲得について疑問の持たれる学生について、実習評価表や各訪問指導担当者からの情報をもとに今後の指導のあり方について学科教授会メンバー全員で審議を行っている。

③ 取り組み上の課題

実習先指導者との情報交換について、現在は訪問指導時に行っているが、今後は計画的にテーマ・時間を設定し協議を行いたい。アンケートの実施や具体的な事例をもとにした意見交換を行うことで、これからの教職課程科目の充実・実習指導の改善に役立てたい。

附属園実習時の実習園養成校懇談会（第 1 回事前懇談会：実習の意義、ねらいについての説明と意見交換、第 2 回事後懇談会：実習を実施してのふりかえり）は令和 7 年度以降計画したい。

<根拠となる資料・データ等>

- 1 学生便覧
- 2 シラバス
- 3 本学 WEB サイト
- 4 学科教授会議事録

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

① 現状説明

保育者養成を主たる目的とする保育学科においては、本学科入学者に対する募宣活動が人材確保の取り組みとなる。

本学科の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）は以下の通りである。

- 1 子どもが育つことに関心を持っている人
- 2 さまざまなことに率先して取り組むことができる積極的な構えを持っている人
- 3 保育者としての信念と誇りを持てる人
- 4 自分を大切に生き生きと行動できる人

保育学科アドミッション・ポリシーについては、大学案内、学生便覧、シラバス、本学 WEB サイトに記載して周知している。

総合型選抜においては受験生に対面で説明し、本学科の求める人材像について確認を行っている。

入学前の学習成果の把握・評価については、香蘭女子短期大学「入学者受け入れの方針」の表の通りである。

高等学校における出前講義にて、教職を担う人材像について説明を行っている。

在学中の人材育成の取り組みとして、在学中の教育実習・保育実習の参加にあたり、最低限達成すべき項目として「実習参加要件」を入学時オリエンテーションにて伝えている。

1. 履修に関して

実習開始時期までに、それぞれ以下の履修を行っていることが必要である。

- ①卒業要件単位（卒業必修科目）を必ず履修していること。
- ②教育実習については、開講される幼稚園教諭二種免許に関する必修科目を全て履修していること。
- ③保育実習については、開講される保育士資格に関する必修科目を全て履修していること。

2. 出席に関して

実習開始前に、全教科の出席率 85%を満たしておくことが必要である。

- ② 教育実習（1 年次附属幼稚園実習）においては、実習前の全授業の出席率
- ② 保育実習 I（1 年次 2～3 月指定保育園および施設実習）においては、1 年前期・後期の全授業の出席率
- ③ 保育実習 II（2 年次 8 月保育園実習）・保育実習 III（2 年次 8 月指定施設実習）においては 2 年前期の全授業の出席率

④ 教育実習（2年次9月学外幼稚園実習）においては、2年前期の全授業の出席率

3. 実習前・実習後の指導に関して

実習前・実習後の指導を受けていることが必要である。

- ①それぞれの実習について、実習前の指導（各担当者ガイダンスを含む）、実習先のオリエンテーション、実習後の指導（各担当者フォローアップを含む）を受けること。
- ②それぞれの実習に関する実習前・実習後の提出書類・レポート等を期限内に必ず提出すること。

4. その他

香蘭女子短期大学保育学科生として、自覚ある行動がとれることが必要である。

実習開始直近の学科教授会において、学生の授業出席状況及び実習に必要な提出物状況を把握し、実習に参加できるかどうかを学科教職員全員で確認している。学習成果の視点から指導が必要であれば学科長や担当教員から指導を行っている。実習参加の要件や心構えについては、繰り返し学生に周知している。

実習終了後も学習成果の獲得について疑問の持たれる学生については、学科教授会にて実習評価表や巡回担当者からの情報をもとに「教育実習」「保育実習」の単位認定の可否（再実習を必要とするか）、今後必要とされる指導についての審議を行い、学生の確実な学習成果の獲得を図っている。

④ 長所・特色

- ・クラスアドバイザーによる個人面談を各学期に最低1回は実施し、学生の意欲の確認や励ましを行っている。
- ・学科教授会において学科専任教員全員で学生の状況を確認し、学生の確実な学習成果の獲得を図っている。
- ・保育者補助体験を令和4年度より附属幼稚園にて新たに導入した。単位実習以外の幼児と関わる経験を増やし、保育者としての責任感・やりがいについて学ぶ機会としている。

⑤ 取り組み上の課題

- ・実習参加や保育職への就職の意欲を在学中に失う学生や、実習中に継続を断念する学生は、一定の割合で存在し、全体の母数が少なくなったこともあり近年の課題となっている。学生気質の変化、コロナ禍の影響もあるが個別の支援が必要である。
- ・保育系への進学を希望する高校生が減少し、本学保育学科でも入学者が激減している。現職保育者とともに高等学校を訪問する等、保育の仕事の魅力を伝えていく工夫が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- 1 学生便覧
- 2 シラバス
- 3 本学 WEB サイト
- 4 学科教授会議事録
- 5 幼稚園教諭二種免許・保育士資格取得に向けて（実習要件）

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

① 現状説明

- ・保育学科内で「就職委員会」が組織されている。
- ・卒業必修科目「総合演習ⅠⅡⅢⅣ」内にて、マナー講座、履歴書指導、採用面接練習（全体）、OG 懇談会、保育協会+幼稚園連盟説明会を実施している。
- ・休み時間や授業終了後に学科教員により個別指導（受験相談、履歴書、採用面接練習）を行っている。
- ・卒業後1年目を対象とした「保育学科新任保育者研修会」を毎年実施している。テーマごとの分科会や個別相談を行い、卒業後のキャリア支援としている。
- ・卒業生が個別にキャリア相談に来校する事例も少なくない。

② 長所・特色

- ・保育職に就く専門就職率は他校と比較しても低くないと認識している。在学学生に対するキャリア支援（個別指導、全体指導）の一定の効果と考える。

③ 取り組み上の課題

- ・近年、幼児教育・保育に関する資格免許以外に他の資格を希望したり、保育学科卒業後など他学科に再入学を希望したりするような事例があるなど、学生の教育職・保育職といった職業に関する意識が以前に比べ変容していることを感じる。学生自身のキャリア形成について、本人の希望と現実の社会状況を教員が理解しながら、支援を行う必要がある。具体的には、保育職を希望しない学生についても学生支援課就職担当と連携し、学んだ内容を活かしつつキャリア形成が図れるよう細かな支援を行える体制を作りたい。

<根拠となる資料・データ等>

- 1 学生便覧
- 2 シラバス
- 3 本学 WEB サイト
- 4 学科教授会議事録

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程教育カリキュラムの編成・実施

① 現状説明

・最新の「教職課程認定基準」「指定保育士養成施設設置基準」や法令等を踏まえ教職課程教育カリキュラムを編成し実施している。

・保育・教職実践演習（幼稚園）ではロールプレイ、模擬保育、園長講話、卒業生講話など最終学期ならではの実践的な内容を計画し実施している。

・卒業選択科目となるが、個々の強みの成長を促し実践力を高める「保育教材演習Ⅰ・Ⅱ」という本学オリジナル科目を1年次に設定している。この科目では8コースから1年間で4コースを選択し学習できる。また現場での実践力のある保育者を養成するための「音楽表現技術Ⅰ～Ⅳ」「保育文章表現技術」を開設している。

・保育内容Ⅳ言葉において園に出向いて「かるた遊び」を実施したり、保育内容Ⅰ健康における園児との「身体遊び」、保育内容Ⅱ人間関係における園児の参与的観察など、各科目において園児に参加してもらっての模擬保育や学生自身による模擬保育など実践的な学習を行っている。

② 長所・特色

・学科専任教員全員が教職課程科目を担当している。

・保育・教職実践演習（幼稚園）ではロールプレイ、附属幼稚園園児と保護者を対象とした親子遊び会の計画と実施ふりかえり、附属幼稚園保護者会講話実施、幼児期における主体的で対話的な深い学びについて外部講師を招く、卒業生講話、など本学のネットワークを活用し実践的な内容を計画し実施している。

・「保育教材演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を教育実習で実践し、学内授業と保育実践の往還的学びが体験できるよう環境を整えている。

・隣接地に附属幼稚園があるメリットを活かし、保育内容Ⅳ言葉において園に出向いて「かるた遊び」を実施したり、保育内容Ⅰ健康において園児と「身体遊び」を実施したりするなど、各科目において園児に参加してもらっての模擬保育を行っている。

③ 取り組み上の課題

各教職科目において、アクティブラーニングの観点からさらなる充実を図りたい。

<根拠となる資料・データ等>

- 1 学生便覧
- 2 シラバス

- 3 本学 WEB サイト
- 4 学科教授会議事録

基準項目 3-2 実戦的指導力育成と地域との連携

① 現状説明

・附属幼稚園・認定こども園を3園持つメリットを活かし、実習以外にも1年次に園運動会やお遊戯会のスタッフとしての参加する機会を設けている。また2年次には保育補助体験を実施し3園全てをローテーションし複数の園環境を学ぶ機会としている。

・香蘭女子短期大学は隣接自治体の那珂川市と子育てに関する包括連携協定を締結しており、年に2回または3回、同市のふれあいこども館にて親子遊び会を主体的に企画実施する機会を設けている。希望者が参加している。学科教職員も指導に関わっている。

・香蘭女子短期大学は所在地の福岡市より地域子育て支援拠点「福岡市子どもプラザ」の1つ「おおはし子どもプラザ」を受託運営している。同プラザにおける子育て支援イベントに希望学生が参加している。学科教職員も指導に関わっている。

② 長所・特色

・附属幼稚園・認定こども園3園を持つこと、那珂川市と子育てに関する包括連携協定を締結していること、福岡市から地域子育て支援拠点を受託運営していること、メリットを活かし、正規の教育実習以外にも多くの幼児との関わる機会を設けることができている。教育実習に行く前にこのような経験を持つことができ、学生にとって実習の不安を軽減することにもつながっている。保育補助体験も学生が苦手意識を持つ実習録を必須としない時間であり、じっくりと子どもと向き合うことができたという感想が聞かれる。

③ 取り組み上の課題

短期大学2年間において教職科目・保育士課程科目を履修すると学生の時間割は大変タイトで、授業以外の学習の場は得るものは大きいが増やすことができない状況もある。参加した学生からは良い学びになったという声が挙がっており、より効果的な取り組みとなるよう毎年検討を行い改善していきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- 1 学生便覧
- 2 シラバス
- 3 本学 WEB サイト
- 4 学科教授会議事録

III 総合評価

香蘭女子短期大学にて教員養成に関係している学科は幼稚園教諭・保育士養成を主目的とした保育学科である。創設 58 年の歴史があり、1 万人近くの保育者を輩出している。令和 6 年度の入学定員は 80 名である。

学科の全教員が教職課程科目を担当しており、学科教授会にて毎月学生の状況について共通理解を行う等協働的な取り組みは充分と言える。課題は非常勤教員とのさらなる理解の場を設けることである。学外の園との懇談会の設定も今後取り組んでいく。

学生の確保・育成・キャリア支援については、在学中は必修科目「総合演習 I II III IV」におけるキャリア支援、休み時間や授業終了後に学科教員により個別指導（受験相談、履歴書、採用面接練習）等を行っている。高等学校における進路ガイダンス（出前講義）にも積極的に参加している。卒業生に対しては、卒業後 1 年目を対象とした「保育学科新任保育者研修会」を毎年実施している。卒業生が個別にキャリア相談に来校する事例も少なくない。本学においては専門職への就職は高い水準にある。

教職課程カリキュラムについては、「教職課程認定基準」「指定保育士養成施設設置基準」や法令等を踏まえ教職課程教育カリキュラムを編成し実施している。保育・教職実践演習（幼稚園）においても実際の業務を想定した実践的な内容を計画し実施している。近年では附属幼稚園・認定こども園 3 園があることを活用し各科目内で「かるた遊び」「身体遊び」「親子遊び会」等、園児に参加による保育実践の機会が充実してきている。那珂川市包括連携協定を締結し福岡市地域子育て支援拠点を受託しており、地域との連携や子育て支援に貢献する機会を複数設けている。

課題としては、学生の 4 大志向や保育職の希望者が大幅に減少していることにより、ここ数年定員未充足の状態が続いていることである。教育内容・キャリア支援・地域連携については小規模校にもかかわらず一定の水準にあると考えるが、志願増には結びついていない。教職課程内においては非常勤講師にも更なる協力を求め、附属幼稚園・認定こども園を持つことを活かした実践的な教育内容の検討を行いたい。また社会に対しては、保育職・教職のやりがいと現状の問題に対する提案を行い、魅力向上のための努力を行い、志願者の堀越を行いたい。